

高等教育サービス機関としての大学図書館の明るい未来

--中小規模大学において図書館が実現可能なことを考える流れ--

鶴見大学図書館 長谷川豊祐 toyohiro@mub.biglobe.ne.jp

図書館員のためのインターネット <http://www2d.biglobe.ne.jp/~st886ngw/>

1)危機から全てが始る！

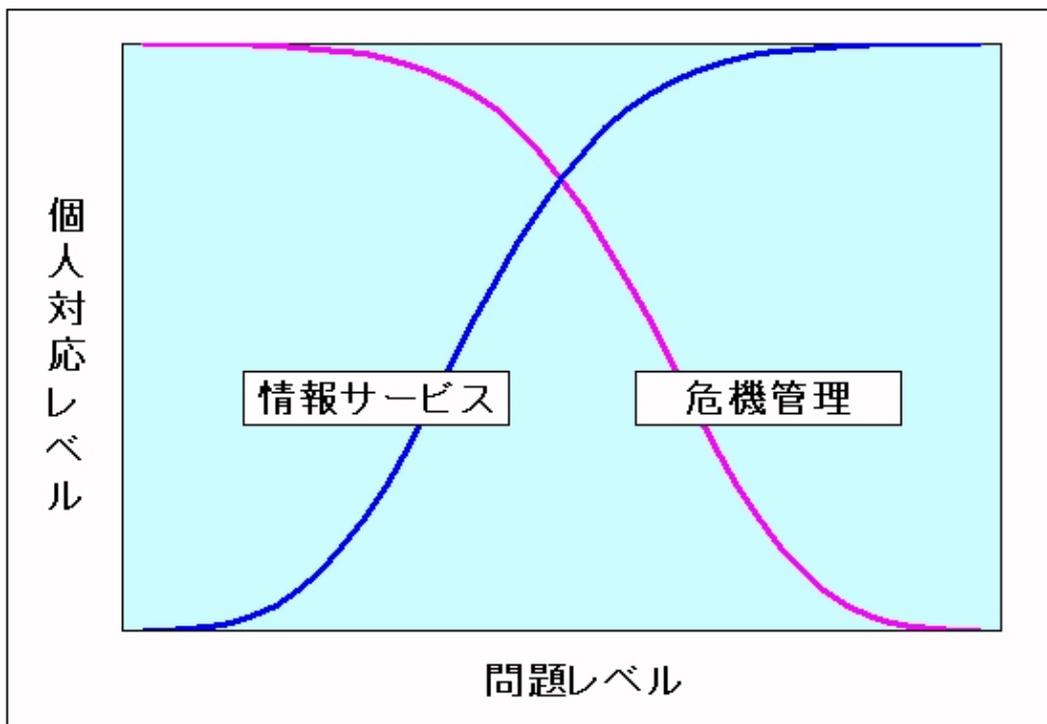
メディアとその周辺の変化： 紙よりはインターネットへ
図書館の変化： 適切よりは最適な情報へ
社会環境の変化： 提供よりは導きへ

危機をチャンスに変えるには、どうすればいいのか？

これを契機に個人力と組織力を高める。

情報サービスに関しては個人力

危機管理に関しては組織力



「危機管理」と「情報サービス」における「問題レベル」と「対応レベル」の関係

2)具体的にはどのような危機があるのか！

「図書館の"今そこにある危機"からの脱出」においては『「何々しないと自分は、あるいは図書館は取り残されてしまう」といった“危機感”が少なからず潜んでおり、それが私たちの背中を押している・・・(中略)・・・「今そこにある危機」を的確に認識し、それを乗り越える手立てを探る。』として、7つのカテゴリーに分けて、22項目の危機を挙げている。私立大学特有の問題もある。

メディアと周辺の変化	図書館の変化	社会環境の変化
a)メディアの変化の危機： 情報システムの危機 情報リテラシーの危機 電子ジャーナルの危 b)予測できない危機： 保存とはなにかの危機 著作権法等改正の危機 出版社側の不安定性の危機	c)役割の危機： 利用者の図書館離れの危機 雑誌切り売りの危機 箱ものとしての危機 d)専門性の侵食的危機： 職場スタッフの危機 アウトソーシングの危機 能力・適正の危機 e)いつもの危機： 書架スペースの危機 人員不足の危機 職場事情による危機	f)財政危機： 雑誌価格高騰の危機 予算削減の危機 為替レート g)親亀である大学の危機： 少子化の危機 学力低下の危機 大学評価の危機 教育システムの危機

【第10回医学図書館研究会継続教育コースプログラム・予稿集、2003年11月19日～21日、<<http://lib.t.med.u-tokai.ac.jp/yokoshu.pdf>>】

3)できることから始める！

- できないことは考えない
- 小さな成功を積み重ねる
- エラーを繰り返さない

それでは、何ができるのか？

4)図書館員の特性を活かして前向きに考える！

- 楽しく仕事をしたい
- お礼を言われるとうれしい
- 図書館員はサービス好き

効果的にみんなの役に立つには？

5)チームで仕事を！

- 同僚の力を活かす
- 学生の力を活かす
- 上司と当局の力を活かす

どこから協力していくか？全部と協力できないか？

6)図書館サービスの3局面

高等教育サービス機関における大学図書館
大学における学習・教育・研究支援として
大学における学生生活支援として

できるだけ広義に考えて、できることを見つけよう！

就職課からの話として、図書館への就職コーナーの設置 意識改革

7)運営の基本方針の明確化と実現可能な取り組み！

豊富な資源の所蔵を再認識

情報産業的な部分をITで高度化

効果的な業務や組織に再編成

図書館の拡大と縮小を認識し存在基盤を強化

人員と経費を節減

労働集約的業務の効率運営に業務委託を考慮

生産性を向上させる効率経営

得点できないならエラーを回避する最低限の人材育成

9)図書館の情報探索・情報入手の優位性を活かす

世間では銀行と預金者との金利の差が縮小

図書館の有効性を展開、図書館への期待度は？

インターネットで情報探索が一般社会へ

図書館員は利用者よりも効率的に情報を探索・入手できるはず？

資料も探索手段もILLも持っている。

さらに、提供することで給料ももらえる

11)鶴見大学図書館の危機の現状認識

職員 20.5名 (全員司書資格、専任19名)と少ないとはいえない

「大学ランキング」の図書館部門では9位と大健闘

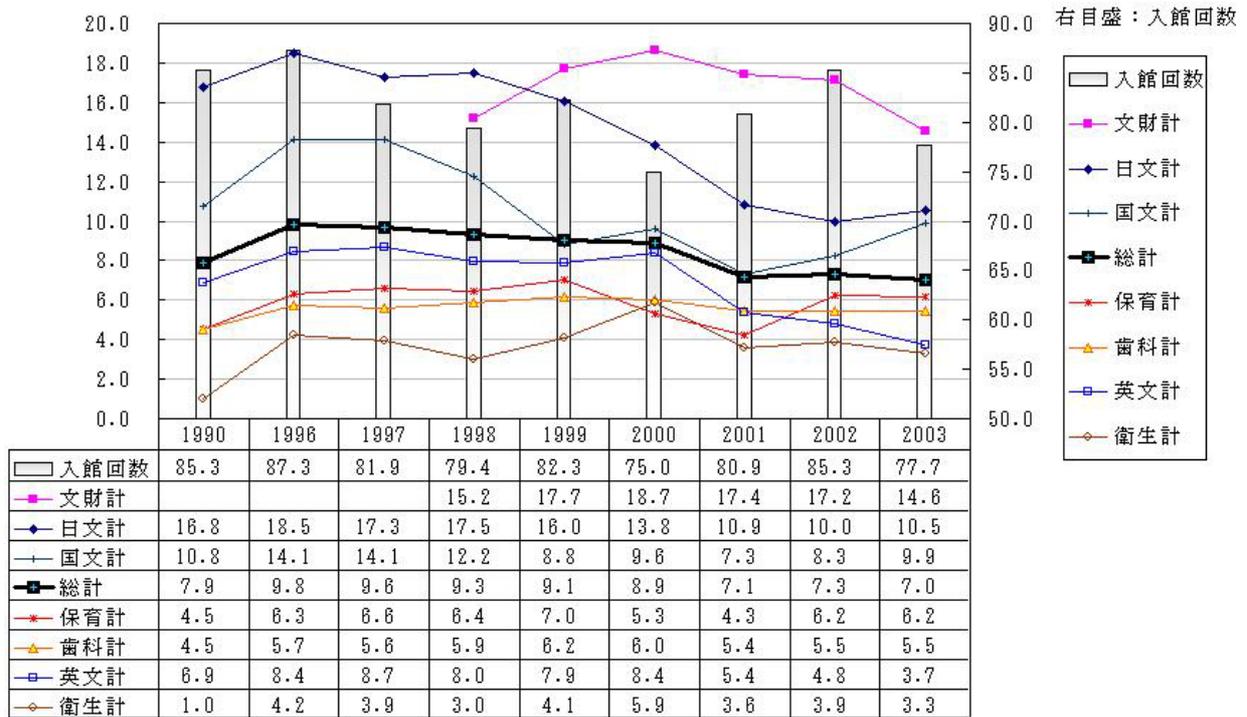
貸出冊数と入館者数の減少傾向 【図をご覧ください】

電子ジャーナルも 402title と少ない

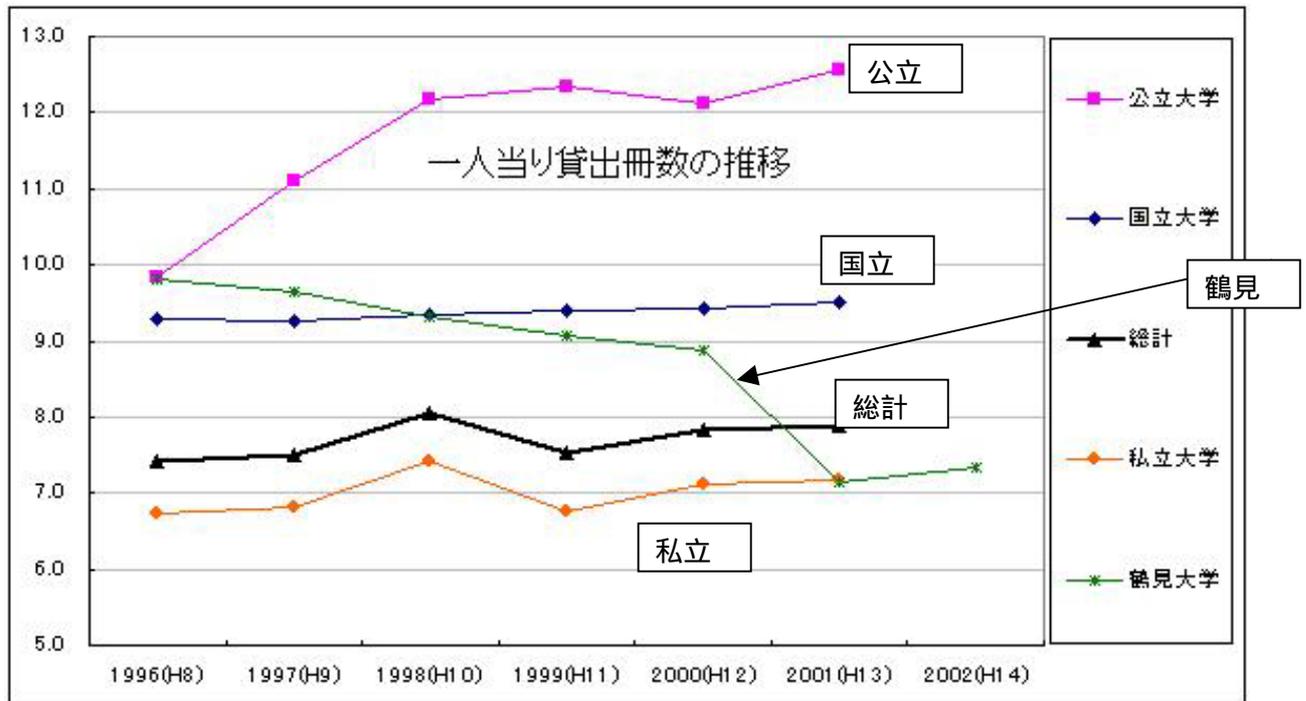
講読中止の雑誌は、273title、54,502,196円と多い

参考資料：

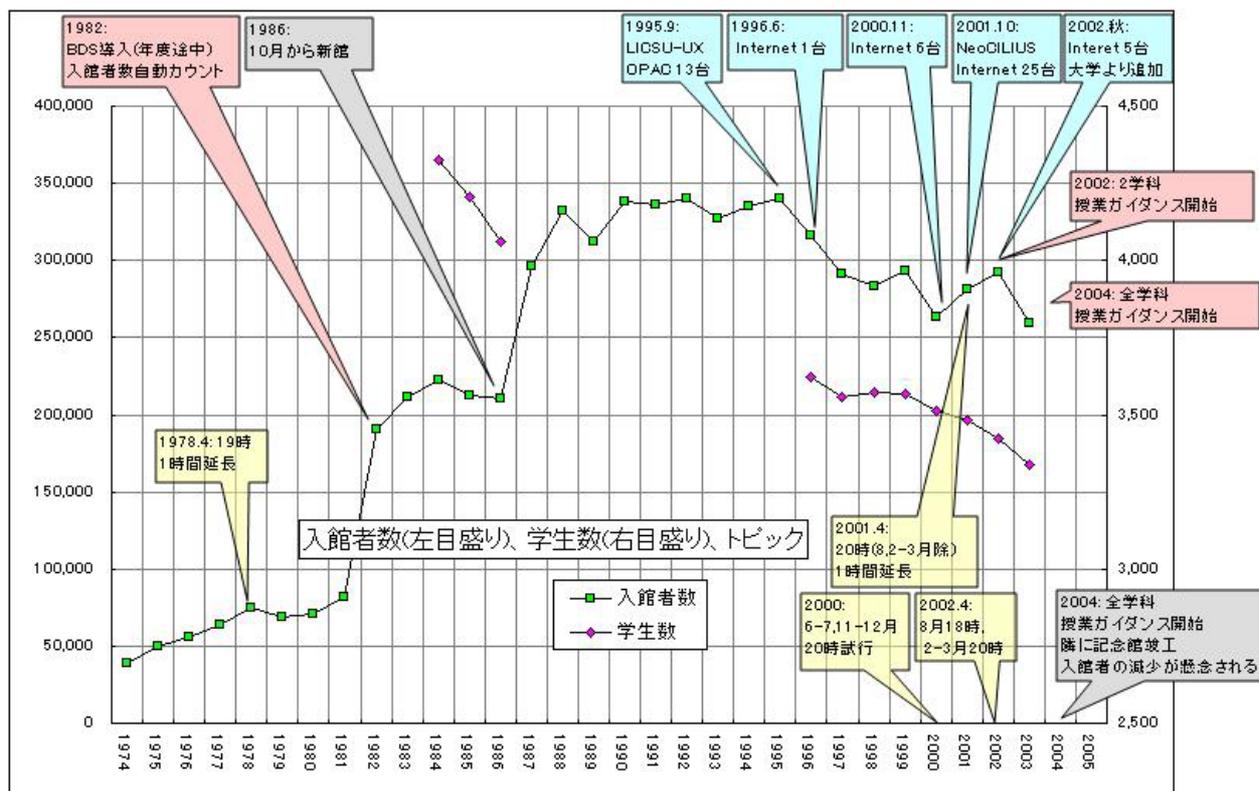
- シャロン・ドマイヤー(Sharon H. Domier) さんによる「IT環境下における大学図書館と図書館職員の使命 アメリカの大学図書館の現状と今後」(「大学コンソーシアム京都図書館の共同事業」IT化の進展と大学図書館の将来 2004年2月26日)の講演記録の動画 <<http://www.consortium.or.jp/consortium/library/>>
- 2014年版のメディアの歴史 <<http://probe.jp/EPIC2014/>> 日本語字幕付
- 2015年版のメディアの歴史 <<http://www.albinoblacksheep.com/flash/epic>>



各科別一人当たり貸出冊数の推移



館種別一人当たり貸出冊数の推移



1986年の新館建築の後、入館者数は5割以上増加。
 1980年代から学生数が2割減少、入館者は90年代半ばから減少傾向。
 2000年は、インターネット用PCの台数が増え、開館時間も延長され入館者数も上昇。
 2003年は、サービス向上が何もなく、入館者数は減少。入館者数に関してはガイダンスの効果はない。

入館者数の推移と施設・設備との関係

12) 鶴見大学ではじめてなサービス

新入生全員へ図書館ガイダンス： OPAC、見学、演習、19回 968名

大学院生による学習アドバイザー 【案内文をご覧ください】

4学科、週1回、午後4時間、実績：2004年前期34名、2005年前期44名

一般書を使った企画展 【図をご覧ください】

図書館ホームページのリニューアル 【図をご覧ください】

学習アドバイザーの皆様へ

学習アドバイザーは、学部学生などに対して、学習に関する助言・指導をおこないます。具体的には、特定のテーマに関する本や雑誌の紹介から個人的な知識からの情報提供、レポートのテーマの決め方からまとめ方、さらに、学習方法の指導から学生生活全般に関する相談に対応します。

学習アドバイザーの役割は二つあります。一つは、学部学生と経験を共有しやすい、身近な相談相手としての役割です。気軽に相談できる先輩としての活躍を期待しています。

もう一つは、図書館を活用した学習支援者としての役割です。自分で学ぶことになれていない学生にたいして、学習アドバイザーの皆さんの経験をもとにして、図書館の蓄積している資料の有効な活用法や、学ぶことの楽しさを伝えていってください。

学習アドバイザーの職務の範囲には、教員や図書館の仕事と重なる部分や協力して対応したほうがよい部分もあります。対応について判断に迷う場合は、対応を来週まで保留し、長谷川に相談してください。

学生の皆さんが卒業までに社会人としての知識を身につけることができるように図書館員と一緒に学習支援に取り組んでいきましょう。



学習アドバイザー



企画展示(1)



企画展示(2)



企画展示(3)



企画展示(4)



鶴見大学図書館の旧サイト



メンテナンスを考慮した簡便な現サイト



高度な技術を要する鹿児島大学附属図書館のサイト



13)大学職員として個人でできること

- 個人のスキルアップ： 効果的に業務を遂行可能に
- サイト運営： 仕事机をインターネットに
- 社会人大学院： 研究技術の習得、教育方法の吸収、人脈形成
- 各種の委員会、講習会： 異なる館種、情報収集

14)一つの事例：国立国会図書館の登録利用者制度

郵送複写サービス：平成15年1月7日開始

H13年度：約 85,000件、個人利用約 17,000件(20%)

H15年度：約210,000件、個人利用約130,000件(60%) 伸びのほとんどは個人利用

【インターネット時代の科学技術情報サービス 関西館開館後の遠隔複写をめぐる . 国立国会図書館月報. 518号 (2004年5月) <<http://www.ndl.go.jp/jp/publication/geppo/back.html>>】

県立市町村立の仲介機能の一部が消滅

国立国会図書館の簡便性・迅速性

申し込みをインターネット、配送は郵便、決済は郵便振替という、最適の組み合わせ

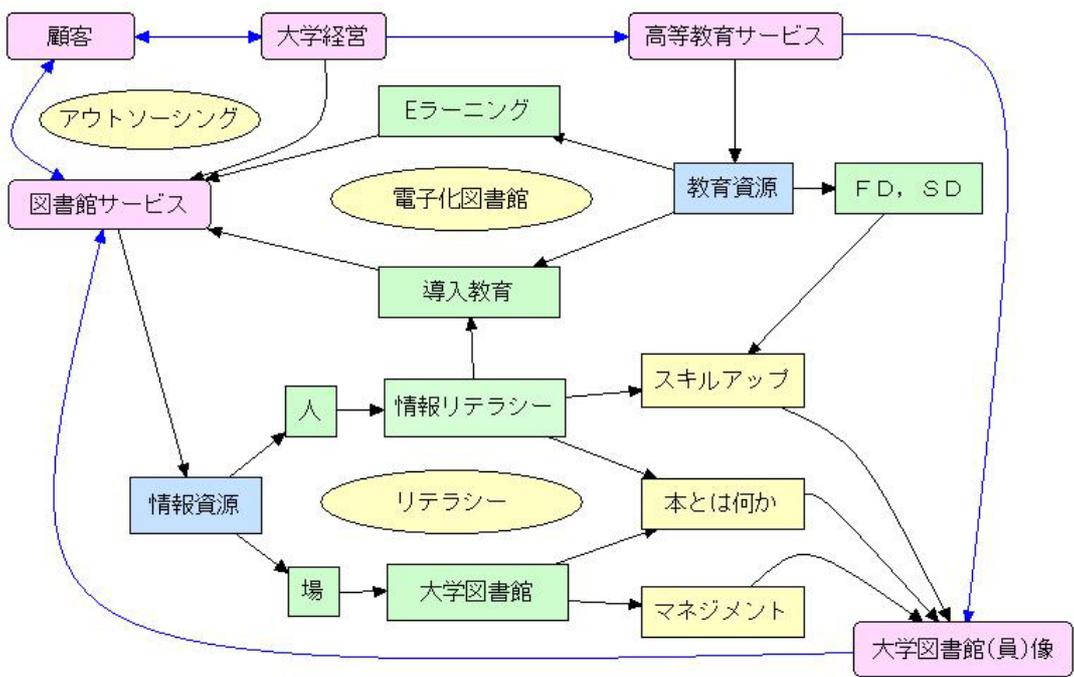
15)基本方針の枠組み

アウトソーシング

電子化図書館

リテラシー

面白いことができそう



基本方針の枠組み (私案)

16)図書館の明るい未来の選択肢：SWOT分析～運営の基本方針

どの組み合わせで行くか

どれを優先させるか

現勢でどれが実現可能か

どれが正解かはわからない

		外部環境分析	
		(3)機会(Opportunity)	(4)脅威(Threat)
		生涯学習への期待 IT化の進行	予算と人員の削減 ニーズの多様化 メディアの多様化 認知度の低さ
内部 要 因 分 析	(1)強み(Strength)	積極的攻勢 (SとOで業務展開)	差別化戦略 (SでTを回避する)
	大量の資料とスペース 無料のサービス 授業との隣接 豊富な情報技術 [豊富な人員、サポート]	(A)高度な情報提供 新たな支援サービス 組織の再構築	(B)存在基盤の強化 サポーターの開拓 効果的なPR
	(2)弱み(Weakness)	段階的施策 (WでOを逃さない)	専守防衛または撤退 (最悪の結果を招かない)
	相対的な能力の低下 アイデンティティの喪失 組織の脆弱さ PRの拙さ	(C)業務の再編成 ガイドラインの作成 業務委託	(D)エラー回避 人材育成 業者との協力

【SWOT分析：@IT情報マネジメント用語事典 <<http://www.atmarkit.co.jp/aig/04biz/swot.html>>】

17)おわりに

自分の力の及ぶ範囲で「少し」無理をする

明るい未来は「ForからWithへ」、「～のために」から「～といっしょに」知恵を出し合って！

冒険できる時代がやってきた！ どうせジリ貧か、何もしない勇気が、選択できる時代！